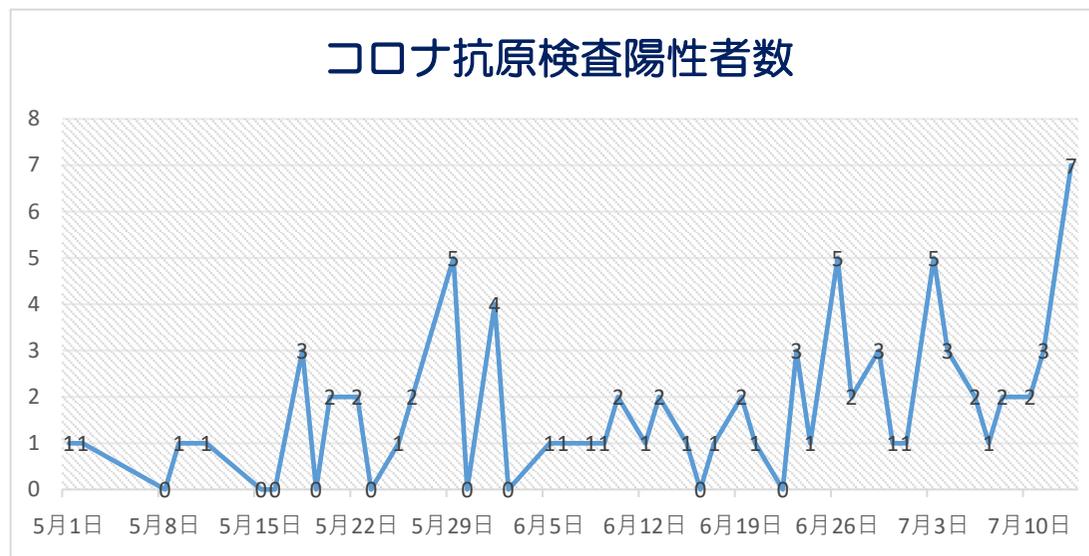


【新型コロナ第9派と定点報告】



このグラフは、公開するかどうか悩みましたが、敢えて公開することとしました。

上のグラフは、当院のコロナ陽性者の実数です。

他院は、公開してないだけで、恐らく近隣の内科外来でも同様の数字と思われる。びっくりされる方もいらっしゃるんじゃないですかね。

5月下旬に一つのピークがあり、6月下旬から次のピークが始まっています。

現在は、ピークの真ただ中です。5月8日からコロナウイルスが5類に変更され、これに伴い、マスクの着脱は自己判断となり、隔離期間は7日から5日に短縮が奨励され、今まで公費負担であった新型コロナ抗原検査・PCR検査が有料となり保険適用となりました。

2類相当の感染症から5類に変更となり、行動制限が解除され、人との交流が再開された結果がこのピークなのでしょう。

マスコミも国内・海外を問わず旅行をおおっております。

発熱しても保険適応としても有料のため受診手控えてしまう、感染対策の意識の低下などなどが、この数値に表れていると考えます。

インフルエンザや一般の風邪と同じように今後私たちは、コロナウイルスとも共存していかなければなりません。

しかし、7月14日報道のデータを見ると入院患者数は、1176人で、先週から87人増えております。

普通の風邪であれば、これほどまでの感染力をもち入院加療を必要とするまで重症化することはそうありません。

コロナが弱毒化しているのは事実ですが、5類感染症に引き下げられたらといって

急に大人しいウイルスになる訳ではありませんからね。まだまだ注意が必要です。

インフルエンザウイルスのようになるのは、もう少しでしょうか。

コロナ治療薬が、インフルエンザウイルス治療薬と同等なほど廉価になるのが一つの条件ですね。

ともあれ、重症リスクのある方は、またご家族に重症化リスクのある方は、積極的に検査をされたほうが良いでしょう。

さて、毎週末新型コロナ定点観測結果が報告されております。2023.7.15付けの読売新聞では、東京7.58です。定点観測とは、全国の小児科・内科約5000医療機関で、毎週陽性者を報告しております。もともとインフルエンザ流行の兆候を確認するため定点観測を行ってまいりました。数値が1を超えると、つまり一週間で陽性者が1を超えると流行の兆しがみられると考えられております。同日の沖縄の新型コロナ定点報告値は、41.67です。これは、定点観測した医療機関が、一週間に陽性と診断した患者の平均値です。沖縄では、コロナ病床がほぼ埋まり、一般病床まで使用していると報道されております。

東京都の値は、7.58ですが、当院の患者数からすると13となります。東京も地域性があり、大田区・目黒区も含め品川区も東京都の平均を大きく上回る陽性患者を診ていると考えております。今まで陽性者全数を報告し、毎日品川区で何人と報道され、注意を喚起していたわけですが、東京都全体を平均化された数字が、報告されるようになり、実態が掴めない状態になっております。

改めてコロナ感染対策を今流行りのChat GPTに文章を作成してもらいました。以下がchat GPTが作成した感染対策です。

◆コロナ感染の9波に対応するためには、以下の対策が一般的に推奨されています。

- ①ワクチン接種の促進: ワクチンは最も効果的な方法の一つであり、感染や重症化のリスクを軽減することができます。政府や保健当局は、ワクチン接種の普及を推進しており、可能な限り多くの人々に接種することが重要です。
- ②感染予防策の継続: マスクの着用、手洗い、社会的距離の確保など、感染予防策の実践は重要です。特に、高リスクの場所や密集した場所では、これらの対策を厳密に守る必要があります。
- ③検査と追跡: 感染者の早期発見と追跡は、感染の拡大を抑えるために重要です。症状がある人や接触した可能性のある人は、適切な検査を受けるようにし、感染者の接触者を特定して追跡することが重要です。
- ④医療体制の準備: 医療施設や関係者は、感染の急増に備えて準備を整える必要があります。重症患者の適切な治療やケアを提供できるよう、人員や設備の増強が求められます。
- ⑤公衆衛生政策の適用: 政府や保健当局は、公衆衛生政策の適用を通じて感染拡大を抑制するために努力しています。これには、情報の正確な伝達、適切なガイドラインの策定、集団の制限や制約の導入などが含まれます。

最新の情報と地域の状況に基づいて、地元の保健当局や政府から提供される具体的なガイドラインやアドバイスに従うことが重要です。感染のリスクを最小限に抑え、安全を確保するために、個人と共同体の努力が必要です。←以上Chat GPT

このChat GPTは、2021.9までのデータをもとに作成されているため、新型コロナ陽性患者全数報告当時の指針が示されております。が、新型コロナに限らずあらゆる新規感染症対策に対しての心得としては同じです。

一方で、インフルエンザもこの時期に流行しております。3年間の行動自粛により感染機会から遠ざかったため、免疫力が極度に低下していると考えられます。以前、夏に沖縄で散発的にインフルエンザが流行したことはありましたが、7月にインフルエンザがこんなにも流行したのは記憶にありません。

今後、夏休みに入り旅行等々で人の移動が増していき人との接触が多くなり、感染機会も多くなると予想されます。

新型コロナのクラスターは、当院の患者を見ると、学校・デイサービス・老人ホーム・会社内・家庭内で多くみられております。

死亡率は、3年前に比べて低くなっているものの重症化リスクの高い人は、いままでもそうであったように十分気を付けてください。

もし発熱等の症状があれば、最寄りの医療機関を受診してください。

当院では、昨年末私もお世話になったコロナ治療薬・ラゲブリオを備蓄しております。

今まで通り、迅速な診断と治療を心がけておりますので、ご利用ください。

2023.7 みしま内科